

「経営情報の早期提供」 プロジェクト定義

2009年 3月

「プロジェクト定義」のサンプル

1.プロジェクトの目的

月次決算・管理会計の確定とその分析内容を経営者・マネージャーなどに、より早く情報提供をする。そのために、経営管理・管理基準・業務処理・取引条件の改善を迅速に行い、経営効率の向上に貢献する仕組みを創る。

2.現状課題と要件

月次決算の確定が翌月10～15日となっている。
経営情報の管理会計が不十分で経営状況を把握しづらい。
事業拡充に伴う経営視点の情報提供が要求されている。
現行システムが経営要求にブレーキをかけている。

3.期待効果

定量的効果の 記述例

- 1) 月次決算の確定を翌月3営業日・管理会計を翌月4営業日に完了し、関係者に情報提供をする。
- 2) 月次経営情報のフォーマットを見直し、分析情報の報告について迅速性・実行性・的確性を重視する。

定性的効果の 記述例

迅速性	<u>分析・報告が正しく速く行えること</u> (経営者・マネジャーへのレポート) <ul style="list-style-type: none">- 経営者、マネジャーに伝えたいこと- 経営者、マネジャーの要望に応えること
実行性	<u>比較の結果、アクションに繋がること</u> <ul style="list-style-type: none">- 前年同期比、予算比(月度、累計)- 事業別、商品分類別、地域別、他
的確性	<u>問題点・原因の容易に究明ができること</u> <ul style="list-style-type: none">- 管理基準、顧客サービス指標に合致- 分かりやすい図表・グラフを使用

3) 業務処理・管理指標・ルールの改善を容易に行なえる基盤を作る。

全員参加 誰でもが改善を提案できる仕組み

意志決定 問題カテゴリー別のルールとルートの作成

4) 2010年2月度の月次決算より順次導入を行い、2010年4月度の月次決算より完全実施する。

必要があれば
記述

4.副次効果

- 1) 日々の業務が効率的になり、顧客サービスの向上につながる。
- 2) 業務効率による成果が、経営体質の強化になる。
- 3) 社員間の信頼感が高まり、コミュニケーション・情報共有がスムーズに行える環境が整う。

5.検討対象の業務範囲

- A. 発注・入荷・仕入管理
- B. 受注・出荷・売上管理
- C. 在庫管理(拠点・棚卸・移動・他)
- D. 買掛金管理、売掛金管理
- E. 加工先管理
- F. 予算管理
- G. 経費管理
- H. 決算処理、管理会計
- I. 営業活動支援

6.日程

2010年6月に終了し、プロジェクトを解散する

2009年5月までに管理/業務要件・仕組みを完了し、その後、詳細の業務改善やルール変更を確定させる。また、必要なパッケージ導入(又は、システムの開発)を行う。

詳細日程とタスクは、実行計画書の作成時に確定させる。

7.体制

プロジェクトマネ - ジャはMM課長、メンバーは6人構成

8.予算

2億円